

第三者意見



蟹江 憲史氏
慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 教授

東京工業大学准教授を経て現職。慶應義塾大学 SFC（湘南藤沢キャンパス）研究所 xSDG・ラボ代表。国連大学サステナビリティ高等研究所非常勤教授、東京大学未来ビジョン研究センター客員教授、日本政府 SDGs 推進本部円卓会議構成員、内閣府地方創生推進事務局自治体 SDGs 推進のための有識者検討会委員などを務める。

このレポートを通読して、「農林中央金庫が農林水産業の現場に近いところにいる」ことが読み取れる点が特徴的だと感じました。農林水産業を基盤とする金融機関という立場は、SDGsの実現に向けて大きな強みとなります。また、責任ある金融の側面を積極的に捉え、ポジティブインパクトの創出やサステナブル・ファイナンスについて触れているのは、非常に好ましい点でした。

人材確保や次世代・女性の活躍推進についても情報がしっかり開示されています。数値を見ると、まだまだ頑張れる余地があると感じますが、今後の改善につながる第一歩として開示が進んだことは評価できます。

さらに、人権への取組みについても情報が充実していると感じました。企業、特に金融の分野では人権への取組みが重視

されているため、フォーカスを当てて開示しているのは良い点だと思います。

今後、さらに充実させてほしいテーマとして、気候変動や、それに関連する林業や水産業の課題に対する取組みが挙げられます。

近年は気象災害が増加していますが、それによって農林水産業が中長期的に受けるダメージは大きいと考えられます。それらを含めた気候変動の課題を、大局的・俯瞰的な視点から説明し、読者を啓発・刺激するような内容を掘り下げることができないのではないのでしょうか。

林業に関しては、日本国内でビジネスの仕組みが整っていないことでコスト増となり、海外の木材に対する競争力が発揮できないという課題があります。林業を育て、活性化することは、地方創生という意味でも非常に重要です。バイオマスなど再生可能エネルギーの利活用にもつながる部分ですので、金融の側面からのさらなるアプローチを期待しています。加えて、海洋プラスチックごみへの対応を含め、海の生態系を守ることは水産業を守るために重要であることから、さらなる取組みと情報開示を進めていただきたいと思います。

農林中央金庫の事業は、SDGsのゴール13・14・15への影響が強く、幅広いネットワークも持っていることと思います。さらに、金融で変革を導くという観点から、ゴール12が目指すサステナブルな消費と生産のドライビングフォースとしての役割にも期待します。ウィズコロナ・アフターコロナの時代には、グローバルなサプライチェーンだけに頼らず、国内での生

産・消費の再構築も重要になります。農林水産業において、サプライチェーンの上流から下流まで関わるができるという強みを活かして、一貫通貫でのサステナビリティの実現へと結びつけていただきたいと思います。

環境への影響を踏まえながら経済・社会についても考えることはSDGsでも重視されている観点ですが、農林中央金庫はそこに直接的に携わる存在です。農林水産業は生態系と密接にかかわり、マクロ・ミクロ双方の視点から捉えることができるものです。日常的な課題に農林水産業の将来を結び付けて考え、取組みを進めることで、持続可能な社会の実現に貢献していただきたいと思います。

第三者意見を受けて

総合企画部長
川島 憲治



この度は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。当金庫の事業基盤となる農林水産業の持続可能性のためには、農業のみならず林業や水産業への一層の取組み強化、そして開示の充実が必要と改めて認識いたしました。気候変動への対応をはじめとして取組むべき課題は山積しています。ご指摘いただいた内容を十分踏まえたくうえで、サステナブル経営の高度化、そして情報開示の充実化に向けて取り組んでまいります。